

広報紙「よりよいかかわりを求めて」は、一宮市や各学校で取り組んでいるいじめ対策について、保護者の皆様に知っていただき、力を合わせて安心・安全な学校をつくっていくことをねらいとしています。

★いじめ等対策主任者会を開催しました

市内各校のいじめ等対策主任の力量向上と各学校の取り組み推進を目指して、11月11日（金）に一宮地域文化広場において、第2回いじめ等対策主任者会を開催しました。教育委員会からは、2021年度の調査で県内のいじめ認知件数が2年ぶりに増加に転じたこと、全国的にスマホやSNSなどのネットいじめの認知件数が過去最多になっていること、一宮市においてもネットいじめが増加していることが伝えられました。最悪の事態を招かないために、また、いじめでつらい思いをしている子どもをなくすためにも、いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための活動を積極的に行ってほしいと指導・助言がありました。



各部会からの報告より



① 調査部より

<道徳的判断力の実態調査から>

(市内小学校6年生、中学校2年生を抽出して調査)

「ネット上に携帯やスマートフォンなどで他人の悪口をかくことはいけないことだと思う」という質問に対し、「当てはまる」「どちらか」というと当てはまる」と回答した割合は、あわせて小学校で99%、中学生で98%でした。しかし、生徒のトラブルの中でSNSに関するトラブルが増えていることも事実です。今後も、当事者意識をもたせ、命に関わることをしっかりと伝えていく必要があります。また、児童生徒だけでなく、保護者の方へも警鐘を鳴らしていく必要があります。

② 子ども支援部より

いじめ等対策主任を中心に、各学校で『全校で取り組む「いじめについて考える」話し合い活動』、『よりよい人間関係づくりのためのコミュニケーション技術向上の活動』に取り組んでください。

また、話し合い活動・コミュニケーション技術向上の活動を充実させるため、指導展開例やワークシート等を作成しています。昨年度の話し合い活動実践後の感想で、「低学年用を作成してほしい」「SNSに関するものを提案してほしい」という意見があり、下記の指導展開例を作成しました。

低学年用「すてきなピンゴ」

高学年用「メールやメッセージのトラブル」

中学校用「気持ちのコントロールの仕方」

③ 広報・研修部より

8月8日（月）に尾西生涯学習センターにおいて、「夏季集中研修講座 いじめ対策研修会」を開催し、小・中学校に分かれ、事例をもとにグループ協議を行いました。どの先生方も「自分がその学級担任だったら」という視点で、意見交換をしました。また、すぐに取り組めるいじめ対策教材として、校内研修編では宮城県インターネット広報資料室の「いじめ対応」、教室での活用編では「NHK for School」の「いじめをノックアウト」や文部科学省の「いじめに対する理解を促す動画教材」を紹介しました。

グループ別情報交換・話し合い

いじめ等対策主任者会において、小・中学校がグループに分かれ、以下の(1)～(3)について情報交換や話し合いをし、その後、情報共有を行いました。

- (1) 生活アンケート後の対応方法やその後の活用について
※ 各校の取り組み状況
- (2) いじめの未然防止に対する取り組みについて
※ 「話し合い活動・コミュニケーション技術向上の活動」の指導展開例の活用
※ 各学校で現職教育などで取り組んでいること
- (3) いじめ等対策主任としての苦勞や心がけていることについて



【情報共有の様子】

アンケートは担任がしっかり話を聞き、どんな小さなこともデータ上で記録に残し、全職員に周知できるようにしている。また、弁護士を招き、生徒にいじめについての講話を行っている。



アンケートの保存方法や活用方法が各校で工夫されていた。いじめ未然防止については人権教育、ピア・サポート、児童会活動などで取り組んでいた。



いじめ未然防止については、人権週間に合わせて行い、Q・Uで気になる回答をした生徒を中心に「一日観察日」に多くの職員で見守っている。



【いじめ等対策主任者会を終えて いじめ対策主任の感想より抜粋】

- 他校での取り組みやいじめ対策主任として悩んでいることを共有できてよかった。いじめの認識は教師間でもまだまだ差があるが、積極的に認知していけるように全職員に呼びかけていきたい。
- 生活アンケートの記録方法や全職員で共有するための工夫が聞け、本校でも取り入れていきたい。
- SNSによるトラブルが年々増加傾向にあるので、SNSの危険性や情報モラルについて今後は一層、子どもたちに伝えていきたい。
- 「いじめの認知件数が多い学校は、教師の目が行き届いていることの証である」という文科省の言葉が印象に残った。子どもたちのために、いじめ対策に取り組んでいきたい。

一宮市主席スクールカウンセラー 関口 恵子先生より

ネットに関しては、大人がきちんと使いこなせるようになっていくことが大切なので、保護者を巻き込みながら、学校でできることをしっかりやっていただきたい。また、コロナ禍で子どもたちは、自分に対する刺激には敏感だが、他者に対して鈍感になっている。そして、教師が持っている物差しと子どもが持っている物差しが違ってきている。「話し合い活動・コミュニケーション技術向上の活動」の実践を多く行い、少しずつ物差しのずれを縮めてほしい。

